

犬の飼い主の皆さんへ

<令和3年度狂犬病予防注射（集合注射）のお知らせ>

狂犬病は、狂犬病ウイルスを病原体とする人獣共通の感染症で、狂犬病の犬にかまれた人が発病してしまうと治療方法がなくほぼ100%死亡する病気です。法律により、犬の飼い主は年に一度、飼い犬に狂犬病予防注射を受けさせる義務があります。

町では、令和3年度の集合注射を下記の日程で行いますので、都合のつく会場へ飼い犬を連れてお越しください。なお、都合のつかない場合は、動物病院で接種してください。



ペットもあなたの大切な家族
毎年、予防接種を受けましょう

実施日	時間	場所
4月16日（金）	13:10～13:30	野田みちくさの館前
	13:40～13:50	下本郷集会所前
	14:00～14:10	津地自治会館前
	14:20～14:30	下榎老人憩の家前
	14:40～14:45	上本郷公会堂前
	14:55～15:00	奥渡公民館前
4月20日（火）	13:15～13:20	舟場コミュニティーセンター前
	13:35～13:40	高尾公会堂前
	13:55～14:00	真住公民館前
	14:10～14:25	日野町山村開発センター
4月21日（水）	13:20～13:30	久住集会所前
	13:50～14:00	小河内バス停前
	14:10～14:20	上菅駅前
	14:30～14:40	日野町公民館前
6月3日（木）・補足日	14:00～14:20	日野町山村開発センター

◆注射料金など（1頭当たり）

※なるべくお釣りのないように、あらかじめ準備をお願いします。

区分	注射のみ
注射料	2,550円
注射済票交付手数料	550円
合計	3,100円
犬マーク（希望者のみ）	80円

※注射当日は、町から送付された「令和3年度狂犬病予防注射受付票（兼 問診票）」（4月上旬発送予定）を持参してください。なお、事前に裏面の問診項目を記入してからお越しください。
※高齢犬（10歳以上）や「過去に心臓病など重い病気にかかったことがある」「当日の犬の健康状態が悪い」「犬が暴れても飼い主が抑えてもらえない」など、獣医師が接種不可能と判断した場合は、後日かかりつけの動物病院で相談のうえ、接種してください。
※日程の都合がつかない場合は、最寄りの動物病院で接種してください。

▶こんなときは役場健康福祉課へ届け出が必要です。

事例	届け出	持参していただくもの
動物病院で狂犬病予防注射を受けた	注射済票の交付	注射済票交付手数料 550円、動物病院で渡される狂犬病予防注射済証
新しく犬を飼い始めた	犬の新規登録	新規登録手数料 3,000円
犬が死亡した	犬の死亡届	鑑札
犬を連れて転入した 犬を譲り受けた	犬の所在地・所有者の変更届	鑑札
鑑札を紛失した	鑑札の再交付	再交付手数料 1,600円、印鑑

【問合せ】町健康福祉センター（電話 72-1852）

第51回 新型コロナに対する最終兵器がいよいよ登場 —ワクチン—

日野病院 病院長 孝田 雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。



ついに開始。新型コロナの ワクチン接種

年末から始まった新型コロナ第3波は、3カ月が経ってようやく収まりつつあります。しかし、年度末、年度初めの異動が始まると再び感染者が増えてくるのが危惧されます。特に関東圏では患者数の減少は下げ止まり、収束にはほど遠い状態です。いつ第4波が始まってもおかしくありません。

また、感染力が強い変異ウイルスが新たに発見され、神戸では変異ウイルスの比率が直近で半数以上になったと報告されました。このままでは鳥取にも近々変異

ウイルスによる大流行が起るかもしれません。

そこで重要なのが、ワクチンの接種です。医療機関での先行接種が開始となり、3月末ごろには日野病院でも接種の予定です。4月末から高齢者に対する接種も始まりそうです。第4波が来る前に、できるだけ多くの人がワクチンを接種しておくことが重要です。

ワクチンの副反応は？ 適切に情報を把握しよう

ワクチンに対して、副反応を心配してためらっている人もいるかもしれません。不安を煽るような報道や噂を信じるのではなく、科学的にデータを吟味することが必要です。今回は、私が知り得た範囲の情報を紹介したいと思います。

まず、今回使われるワクチンは、ファイザー社製のmRNAを用いたワクチンです。

この方式で作られたワクチンが人に投与されるのは初めてのため、不安に思っている人が多いようですが、ア

メリカではすでに2700万人が接種を完了（2回終了）し、イスラエルでは国民の40%が完了しています。

重篤な副反応として、10万回の接種で1回くらいの頻度でアナフィラキシーショックが出ていますが、適切な治療により死亡例はありません。

副反応として、注射部位の痛みや発赤は90%、発熱は35%、倦怠感60%の人に認められます。しかし、これらは一日〜数日で消失します。他のワクチンでもこのようなことはよく見られますので、心配することはありません。

高い発症抑制効果も 重症化を抑える効果も

では、ワクチンの効果はどうでしょうか。

95%の発症抑制効果が報告されています。これは、ワクチンの中でも飛び抜けて優秀な成績です。95%の発症抑制効果というのは、ワクチンを打った約2万人と偽薬を打った2万人を比較して、ワクチン群からは9人の

新型コロナの発症があり、偽薬群からは169人が発症。ワクチンの効果で169÷9＝160人が、つまり160÷169＝0.947、およそ95%が発症しなかったということですよ。

最近の報告では重症化も抑えることが分かってきており、たとえ発症しても重症になることや、死ぬことはほとんどなくなるものと思います。新型コロナウイルスによる死亡率は70歳代で4.5%、80歳以上で12.3%、基礎疾患があればもっと高率になります。

以上のことを考えれば、ワクチンを打つことをためらう理由は何もないと思います。ワクチンはあなたを救う最終兵器なのです。

